

## 滑川市立早月中学校 校長室だより



# 虹



### かけがえない宝もの ～ 千思東虹～

校長 玉木 彰 治

9月14日(土)、早月中学校の運動会を開催しました。暑さ対策から例年より1週間遅らせた日程としましたが、残暑は厳しく、暑い・熱い運動会となりました。保護者の皆さんにも、暑い中、たくさんの声援と拍手をいただき、本当にありがとうございました。皆さんにまでテントが行き届かないこと、これが現状で在り、一緒に盛り上げていただくためにも何とかしなければいけないと思っています。また、今後も続くであろう尋常でない気温や強い陽射しは、開催時期・時間帯・方法の検討が必要だと思っています。何か良いアイデアがあれば、お聞かせください。

さて、今回の運動会は、どのように感じられたでしょうか。

学校では、これまで(コロナ禍)の運動会を振り返り、アフターコロナの運動会として、早中の特色「行事で人を育てる学校」を再現しようと、まずは生徒会と学年の意向を聞き、大幅なプログラムの見直しを行いました。8:30開始と例年より早く、これまでは最後に踊っていた新川古代神を、オープニングセレモニーとし、運動会の気運を高め、華やかなスタートとしました。早中生全員で、これから始まる運動会を最高のものにしようとする目新しい演出で、素敵な幕開けになったと思います。

開会式はできるだけ簡素化し、生徒会副会長の宣誓が一番大切な言葉とし、大人の挨拶は水野市長のみとしました。プログラム中は、放送の指示ができるだけ少ない形としました。大切にしたことは、生徒が、自分たちの運動会を自分たちの手で作り、「自分たちの力」で運営することです。ご覧いただいたように、生徒は、自分たちの力で集まり、自分たちで整列・準備(ウオームアップ)・解散ができる。また、自分たちの思いでそれぞれが絶え間なく応援できるなど、まだまだ全てはできていませんが、そこにチャレンジする姿を見ていただけたのではないのでしょうか。他の中学校に行くと大人の指導が沢山必要となっている学校もあります。それは、自分の意志ではなく、やらされていることに自然の抵抗を示しているからだと思います。しかし、今回の運動会は、上級生や仲間が側で声をかけ、自分たちの思いを伝えることで各団の所属感が深まり、「自分たちが楽しめる・自分たちの手で心をつなげる運動会」を創り上げてくれました。何をやるにも自分たちで気付き・声をかけ、必要な時以外は声を出さなくとも自分で頑張れる。これこそが早中の新たな運動会だと生徒を見て思いました。

閉会式そして解団式、どの団にも涙があり、心がたくさん動き、大きく成長できた運動会でした。

最後の全校生徒・全職員での円陣は、私たちの「かけがえない宝物」です。

早朝から、応援いただいた執行役員の皆さん、そして暑い中見守っていただいた保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

大きな行事は、子供たちの力をジャンプアップさせます。次は、10月25日(金)と26日(土)の早中祭です。運動会とはまた違う子供たちの姿をご覧いただき、保護者の皆さんに「感動」をお伝えします。どうぞ楽しみにしててください。ご声援と協力、ありがとうございました。

〔連絡〕

1年生では、9月24日から学年担任制(試行)を実施しています。学年所属の全ての先生で91名の1年生全員を支援していく試みです。これは、一人の教師の視点では、見て感じるできないところを他の教師の視点やアンテナで察知することが目的です。また、これまで関係性が浅かった先生とも時間を共有することで、相談できる選択肢を増やすこともできます。教師側にとっては、これまで一人で行っていた様々な業務が分担されることで業務量や時間の軽減化が図られ、子供と向き合う時間の確保や授業の準備に充てられるというものです。まずは1クール(4週間)実施し、検証を行ないます。メリットやデメリットが出てくることでまた成長できると思い、試行しています。早速、教師側からも「さみしいな」と声が上がってきています。それだけの「子供への愛情」も嬉しく感じながら、明日の教育のために我慢しながらトライしています。ご理解をお願いいたします。